



8



7

7 七宝宝相華文香合 安藤重兵衛 一点

昭和三年（一九二八）七宝
径六・五、高二・五

8 七宝唐花文蓋付壺 安藤重壽 一点

昭和三年（一九二八）七宝
径一三・六、高二〇・五

二点とも縹綉彩色風の宝相華と唐花を意匠とした七宝作品で、それぞれ緑や黄を主とした釉薬の発色の鮮やかさが強く意識されている。作品番号7《七宝宝相華文香合》は、緑色の地色をベースとして、中央に盛上七宝で六枚の花弁を持つ宝相華を配し、その周囲に金線を用いた宝相華文様を巡らせた華やかな意匠となっている。作品番号8《七宝唐花文蓋付壺》は、濃度のある黄色をベースに有線七宝で唐花文様を周囲に連ねて装飾し、蓋の八枚の花弁形に立ち上がった部分には透胎七宝、摘みには盛上七宝を用いるなど、技法的にも高度な作品である。

安藤重兵衛（一八五六〜一九四五）は、安藤七宝店の前身の煙草店の奉公人であった。初代安藤重兵衛の没後、幼少であった初代の子、安藤重壽（一八七六〜一九五三）を庇護しながら優れた工人を工場長に迎えて同店の拡大に功績を残した。明治三十年代から大正期にかけての数々の博覧会において、両者の名義で受賞を重ねた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan